

特定非営利活動法人 ピアソン会

第77号

2017.12.10

ピアソン便り

発行人：吉田 邦子（理事長） 編集人：伊藤 悟（理事）

ピアソン会事務局
(事務局長 伊藤 悟)

〒090-0036

北見市幸町7丁目4番28号

Tel: 0157-31-1215

ピアソン記念館内

AM.9:30 ~ PM.4:30

e-mail アドレス

pierson@yacht.ocn.ne.jp

一年を省みて



理事長 吉田 邦子

教師夫妻関連新資料の展示等に加え、休息中のホームページが新しい姿となるなど、変化に富んだ一年間を実感いたしました。

北見市は、2019年に『北見・エリザベス姉妹都市締結50周年』を控え、検討委員会を設立しました。当会も委員となりました。

年度末を少し残し2017年もいよいよ最後の月となりました。この年も多くのご支援により安心して歩むことができましたこと、理事一同心から感謝申し上げます。

隔月発行の会報『ピアソン便り』は順調に今年最後の6号目で通算77号となり、当ピアソン会の日常をお知らせできました。定例のもの、積み重ねるもの、活動の広がり、時には『ニュースとなる来館者』。前号予告のピアソン宣

クリスマスツリーの展示！



【写真右】12月5日、北見幼稚園の年長組24名が作ったオーナメントで、ピアソン記念館にクリスマスツリーが飾られました。園児24名と小林園長、先生4名、ピアソン会ハーブ部会3名、理事4名での記念撮影。

手作りオーナメントに挑戦!

11月13日の月曜日に、ピアソン会ハープ部会（小林、増井、長南道順）の4名により、北見幼稚園年長組24名の園児に、クリスマスツリーに飾り付けするオーナメントの手作り教室を実施し、約1時間で2種類のオーナメントを作成してもらいました。

この企画は、約百年前のピアソン邸で、母子で作ったクリスマスツリーを再現という事から、幼稚園の小林園長先生に相談したところ快く承諾してくださり実現したものです。素晴らしいクリスマスツリーが出来上がりました。



写真右/ピアソン邸で飾られた初めてのクリスマスツリーと「母子の記念撮影」。



写真右/園児たちに作り方の説明をするハープ部会の先生たち。



写真左/タマゴの殻に小さく切った布を貼り付けていく園児たち。



写真右/ブドウの蔓にヒバの葉や松ぼっくりなどを付けていく園児。

出来上がったオーナメントを持って12月5日にピアソン記念館で飾り付けをし、記念写真を撮りました。



写真左/飾り付けを終え、賛美歌「聖しこの夜」と「喜びはむねに」を歌う。

第17回文化サロンのピアソン クリスマスリース講座終了報告!!



【写真右】一心不乱にリース作りに集中する参加者の風景。



【写真右】毎年参加する受講者も。

11月26日の日曜日、クリスマスリース作り講習会を、午前10時からの組と、午後1時からの組の2回の日程で実施しました。予定の参加定員20名の枠を大きく超え、33名（子供2名含む）の参加を得ての講習会となりました。ピアソン会ハープ部会の増井・小林両先生の指導で、ぶどうの蔓でもあるくかたどったリングに、思い思いの木の实や木の葉などを飾り付け、好みのリース作りを楽しんでいました。



【写真左】初めて参加する母娘。

素敵なかみ館者たち！

10月20日、北見市の北網圏北見文化センターで開催の「全国科学館連携協議会北海道ブロック」へ出席された館長さん達が、ピアソン記念館に来館されました。道内加盟は16団体とのことです。分野は違いますが、互いに同じ博物館法が適用される施設ですので真剣に勉強されていきました。



スタッフ写真⑱

広告見本

年6回掲載で、年額10,000円です。

30 ミリ
×
50 ミリ

スポンサー募集！
今後もピアソン便りの隔月刊発行を継続するため、協力スポンサーを募集致します。年間1万円の協力で、会報に左図スペースでの広告を毎回掲載させて頂きます。スペース×6回となりますので、スペースを2倍とした場合は年3回となります。詳細については事務局まで。



ピアソン記念館は、北見クリスマスツリー発祥の館です。

驚「ピアソン学事始め」④

この「ピアソン学事始め」は、15年前に街の情報紙に書かれたものですが、少し手を加え年号なども修正し改稿として連載しています。

(4) ピアソン夫妻とクリスマスツリー

ちょうど15年前の12月1日から1週間、ピアソン宣教師の生まれ故郷、アメリカ・ニュージャージー州にあるエリザベス市へ、資料収集のための旅行をしました。ニューヨークに近いこの市とは、ピアソンさんの縁で、今から48年前に当市と姉妹都市の締結をしています。

ニューヨーク市内のホテルを宿泊のベースとして、毎日車でエリザベス市を訪問したり、プリンストン大学まで足をのびたりと、毎日忙しく動き回り、夜遅くにニューヨークへ戻るといふ日程でしたが、同行してくれた小田啓二君（北見出身で日本ガーディアン・エンジニアリング理事）が所属する、ガーディアン・エンジニアリングのニューヨーク本部から、連日車と運転する人を派遣してくれただおかげで、予想を上回る成果をあげる事ができました。アメリカを代表するボランティア団体が、日本のピアソン会という小さなボランティア団体への『ボランティア』という、不思議な関係が生まれたのです。連日夜遅くにニューヨークに戻る

と、街の中はクリスマス一色で非常に綺麗に輝いていました。特に滞在の最終日には、ロックフェラーセンターのクリスマスツリー点灯式の日で、「お上りさん」よろしく見物に出かけました。

北見でクリスマスの祝会行事が行なわれたのは、1905（明治38）年の事ですが、ツリーの記録はありません。

ピアソン夫妻が北見に来てから、ピアソン邸にクリスマスツリーが飾られ、子供たちも参加するようになりました。記録に1918（大正7）年とあります。母子が集まり、クッキーなどを食べたようです。子ども達はサンタさんに会えたかな？

写真／居間に飾られたクリスマスツリー。



ピアソン会理事 伊藤 悟

「ニュージーランドからの便り」第10回

〜ピアノン会顧問 グラハム・ハード氏〜



*2017.9.24

〜ケンブリッジから〜

◆昨日は、同窓会活動で二つの講演を聴きました。ナショナル・トラスト前議長は景勝地の保全と保護の重要性や価値について語りました。その後、キングス・カレッジのチャペルで Evensongs (夕べの祈り) に出席しました。

◆今日は同級生と昼食にコルプス・クリステイ・カレッジへ行ってきました。昔の友人たちに出会ったりで、とても楽しかったです。コルプス・クリステイ・カレッジのオールド・コートでの写真を送ります。

*2017.10.24

〜無事帰宅しました〜

◆ヒースローからシンガポール経由の飛行は長く、季節や時差の違和感がありました。二人とも故郷で元気です。

◆毎日が興味深いエキサイティングな出来事いっぱい、本当に、



巡礼の旅に出たようでした。感得したすべてを咀嚼するには多くの時間がかかります。

◆郵便が届いていました。ドナルド・キーンさんの執筆の新聞記事と掲載写真を見て本当に驚きました。ケンブリッジのコルプス・クリステイ・カレッジでキーンさんが写っている守衛詰所への玄関脇やオー

ルド・コートのまさにその場所に、つい最近自分が立っていたのだから。

◆氏がケンブリッジの学生とは知っていましたが、この瞬間まで、母校のコルプス・クリステイ・カレッジとは分かりませんでした。ケンブリッジには多くのカレッジがありますから、コルプス・クリステイだったとは想像もしませんでした。氏のケンブリッジでの回顧録1979年学生社発行の英語版『日本との出会い』にはカレッジの名前の言及はなかったです。この本は、1980年の

同社発行『日本での旅』とともに北見滞在の初め頃から所帯してました。個人的に会ったことはありませんが、北見着任後間もなく、札幌での講演を聴いたことを思い出します。多分、その機会に2冊を手に入れたと思います。キーンさんの署名があるのに今気づいたところです。本当に優れた学者で素晴らしい人物です。心から尊敬しています。いつも刺激を与えられています。

◆つい先日ロンドンで大英博物館を訪れた後、近くのゴードン・スクエア(広場)まで歩き、しばし美しい庭に座っていました。そして、中国文学や日本文学の伝説的学者かつ翻訳家であるアーサー・ウェリーの思い浮かべましたが、彼のその広場を見下ろすアパートに長年住んでいました。ウェリーの全盛期はドナルド・キーンや、私もそうですが、数え切れない人々にインスピレーションを与えたものでした。彼はいつも大英博物館の有名な読書室を研究室に使い、近くのオリエンタル・アンド・アフリカン・スタディズの学校で講義をしました。読書室は、それらしくは見えませんが、現存します。

*2017.11.16

〜ワンガヌイから〜

◆北見では寒さも増し日も短くなっていることでしょう。ワンガヌイの農園滞在中です。今は午後8時30分、太陽が沈んだところまでです。ニュージーランドでは夏時間になっていて夕方が長くなりました。夜は涼しいですが、日中は20度Cくらいです。昨夜は美しい星空でした。近くに街路灯はなく、オリオン星座が鮮明に見えました。南半球では北半球とは上下逆さまに見えます。

◆果樹園で樹々周辺の雑草片付けをしていました。今年は殊の外成長がよく、プラムやリンゴの良収穫が見込めそうです。プラムは1月、リンゴは3月からです。ツバメが家の周りを飛び回り、車

庫の近くのポーチに巣を作りました。ここに着いた時には、キッチン窓の近くへ来て私の品定めをしていました。窓からは羊や時にはウサギが見えます。牧草地で互いに接近していても気にしてない風です。

◆土曜日(11月18日)にはファングパラオアへ帰ります。北見の皆様によろしく。

編集後記

いよいよ本格的な冬の到来です。幼稚園児によるクリスマスツリー飾付けの朝には、かなりの積雪でした。一夜明けた朝にはマイナス20度にもなったようです。

10月から11月にかけて開催していた未公開ピアノン資料企画展も終了致しました。開催期間中には、報道で知った方々による情報提供もあり、有意義な企画であったと評価しております。47年前にピアノン記念館としての復元工事を担当された大工棟梁のSさん(84歳)も当時の写真を持って来館され、貴重な情報を提供していただきました。ありがとうございました。

11月に、43名の団体が入館しました。札幌からの大型バスでの来館でしたが、着いてから出発まで女子トイレの順番を待つ女性が絶えず、最後には男子トイレも急遽女性用に解放しなければならなくなりました。対応するのも切なくなる一日でした。

今年も残すところ僅かとなりまして、良いお年をお迎え下さい。

(理事兼事務局長) 伊藤 悟